

家庭系収集ごみ有料化に向けた地域意見交換会 (新知コミュニティ) 意見の概要

日 時 平成27年8月15日(土) 18時00分から19時00分まで

場 所 新知公民館

出席者 地域の方：約40名

事務局：7名(環境経済部長、ごみ対策課長、同副課長、ごみ対策課担当者2名、
リサイクルプラザ担当者2名)

家庭系収集ごみ有料化検討会議副会長

資料に基づき事務局説明

- (1) 「知多市家庭系収集ごみ有料化基本計画」について
- (2) 意見交換事項
 - ア 手数料の設定について
 - イ 効果的な施策について

<質疑、意見>

《意見交換会のあり方について》

【意見等】 コミュニティ単位の意見交換会の参加者は役員等が多く、女性の参加者が少ない状況であり、ごみに係る問題は女性も大きく関わるため、各町内会単位で実施するのが筋だと思います。市民を巻き込んでということであれば、コミュニティ単位では身近な対策や意見は出ないのではないのでしょうか。

【事務局】 今年度の意見交換会については、コミュニティで開催という形でお願いさせていただきたいと考えております。また、女性の意見もいただきたいと思っております。

【意見等】 説明会は、決まった制度の説明となり、意見は十分に伺い制度に反映させると言いながら何にもしないということが普通のパターンだと思います。

【事務局】 意見交換会も従来はあまりなかった取組であり、限られた時間ですが、意見は十分に反映させたいと考えていますのでご理解をお願いします。

【事務局】 他コミュニティの意見交換会の後、勉強会の開催要望があり、市の出前講座として、ごみの出し方等の勉強会を地域の方約50人で開催しますので、当地区でもそのような機会を作っていただければと思います。

《指定ごみ袋制と家庭系収集ごみの有料化について》

【意見等】 現在も指定ごみ袋を購入していますが、有料化とはどういうことですか。

【事務局】 ごみ収集には購入した指定ごみ袋が必要があるという点では、現在でも無料ではありませんので、今回の取組は「家庭系収集ごみ手数料化」の方が適当かと思いますが、国や他自治体でも「有料化」と言うことが一般的です。

現在の指定ごみ袋は、袋の製造や流通の経費として1枚当たり約10円で販売されていますが、市の規定を満たし承認された袋が自由競争販売されており、市の収入はありません。今回の有料化は、袋の製造費用等を含めて袋1枚ごとに手数料として市に収入をいただくものです。

《ごみ排出量が多い要因について》

【意見等】 知多市は県内自治体平均よりも1人1日当たりのごみ排出量が約150g多い要因をどのように考えていますか。

【事務局】 知多市は地域での資源回収に比較的早く着手しましたが、地域回収を始めるときに、市民に無理のない品目や、リサイクルされて売上になり地域に還元できる回収物にするなど、地域の方と相談して決めてきました。その後、他自治体が最終処分場の問題などから、ごみ減量のために、急激に非常に厳しくごみと資源の分別を進めてきた中で、知多市は相対的にごみが多い状況にあると考えています。知多市の方が特に多くのごみを排出しているという訳ではないと考えていますが、ごみの中に資源として回収できる物も多く含まれているという状況だと思っています。

《ごみ減量への対応策について》

【意見等】 有料化がごみ減量に効果的施策とのことですが、他に施策がありますか。

【事務局】 家庭系収集ごみ有料化は、全国で約6割の市町村で実施されており、関東

では1リットル当たり2円の設定で、45リットルごみ袋1袋が約100円の市町村が多くあります。有料化が実施されると、ごみ排出にお金を掛けたくないという心理が働き、紙類を資源回収に出す、生ごみを自家処理する等の努力がなされ、有料化実施の市町村はいずれもごみ排出量が減少していますので、客観的には有料化はごみ減量になる施策であると考えています。

昨年度の検討会議の「資源回収品目を増やしてほしい」「資源回収の場所や回数が分かりにくい」という意見を踏まえ、ごみ減量への対応策である資源回収を改善していかなければならないと考えています。

資源回収の方法については、地域による違いもあると思いますので、全市一律ではなく、地域性のある方法も考えていきたいと思います。

【意見等】 ごみ減量化に取り組むことについて、今までどのようなごみの減量化の施策をしていて、それで限界があったということの説明がありません。

《不燃物の処理について》

【意見等】 空き缶などの不燃物の処理はどのようになっていますか。

【事務局】 缶類などは、不燃物として集めていますが、そのまま埋め立てている訳ではありません。鉄とアルミは、機械で選別して、売却しています。

《ごみ処理費用について》

【意見等】 修繕費や維持管理費の大幅な増加は、具体的にはどういうことですか。

【事務局】 今のごみ処理施設が12年を経過し、最初の4、5年間は定例的修繕で済んでいましたが、比較的大きな設備の取り替えや修理が出てきて、修繕費用が増えている状況です。東海市と共同でごみ処理施設を建設していく中で、現在のごみ処理施設の今後の稼働期間が限定されるので、効果的な修繕や運転管理の見直し等により、費用増大の抑制を考えています。

【意見等】 有料化に当たり、これまでにコスト削減にどれだけ努力したのか、ごみ減量のために資源回収品目を多くするというような努力をしてきたのか、どのような工夫をしてきたのかという説明の上で、これ以上コストが下がらないので、その部分の負担を市民に求めたいということであれば、少しは理解し

やすいのではないかと思います。

【事務局】 市民のごみ減量の努力が処理費用の削減にストレートに反映してこない点は大変申し訳ないと思っています。

【意見等】 可燃物と不燃物の処理費用が1kg当たり61円と同じ金額になっていますが、なぜ同じ金額なのか。

【事務局】 不燃物として収集してきた物は、破碎施設で細かくして、鉄やアルミを磁石等で取り出し、残りは、可燃物と一緒に焼却するため、可燃物と不燃物の処理費用を分けきれないことから、ごみ1kg当たり61円の処理費用であるとご理解ください。

《ごみ処理施設広域化に伴う負担について》

【意見等】 東海市との共同のごみ処理施設の建設費の想定と、両市の人口比での負担割合だと思いますが、知多市の負担額の想定はありますか。

【事務局】 現在の知多市清掃センター建設費は約87億円でしたが、東海市との共同のごみ処理施設の建設費については、その倍程度の150億円から200億円を想定しています。建設費の負担割合は、両市で人口割とする協定を結んでおり、知多市の負担割合は45%程度を見込んでいます。

《手数料額について》

【意見等】 手数料は安い方がよいというのが市民共通の考えであると思いますので、例え1円でも50銭でも安くしてほしいと思います。

【意見等】 東海市と共同のごみ処理施設を建設しようとしている中で、東海市は1リットル当たり2.75円と非常に高い金額になっており、金額の根拠がそれぞれあると思いますが、1リットル当たり1円の根拠がよく分かりません。

【事務局】 ごみ袋1リットル当たり1円の場合の市民の負担割合は15%~20%程度になります。ごみ処理費用の全てを税金で賄うのか、多量にごみを排出される方には相応の負担していただくのかを「受益者の負担率」として定める考え方です。有料化はごみを多量に出す方にはより多くの負担を求めることで、ごみ排出量の抑制を図ろうという取組です。

【事務局】 常滑市の有料化は単純比例型で袋の大きさに手数料が比例する方法です。

東海市の有料化は一定量無料で指定ごみ袋を配布し、超過分はより高い手数料額を設定する方法ですが、全国的にも採用市町村は比較的少なく、県内では東海市、碧南市、高浜市の3市のみです。配布枚数を減らしていけば、ごみ減量に効果がありますが、通常のごみ量に必要な枚数の配布があれば、あまり効果が出ないという側面もあります。

また、複数の市町村が共同のごみ処理施設を利用する場合、ごみ処理費用の負担割合は、ごみの排出量に比例する方法が一般的なため、ごみ減量の効果が市町村の費用負担に如実に現れます。

【意見等】 有料化の理由は、ごみ排出量が減っていない、資源回収量が少なくなっている、次の施設建設にお金が掛かる、近隣の市町村も家庭系収集ごみ有料化になっていると整理されます。

家庭系収集ごみ有料化の必要性は分かりますが、手数料額の設定については、総額いくら集めてどのように配分していくのか、建設費用にいくら充当するのか、ごみ処理に10億掛かるので、それに少し充てるとか、ごみ処理に充てるパーセンテージによっても金額が変わってくると思います。

【事務局】 ごみ焼却施設建設は、非常に多額の費用が掛かるので、建設費に対しては、有料化の収入からほんの一部を充てると考えていただければと思います。

《資源回収品目の拡大について》

【意見等】 今の時勢で有料化は仕方ないにしても、資源回収の受け皿として、中身が洗ってあれば、飲料缶以外のペットフードの空き缶等も受け入れられるような体制を整えてほしいです。圧縮と梱包の関係で大きさの制約があるかもしれませんが、缶詰の缶等を資源として受け入れてもらえればごみの減量にもなります。将来的にも管理型の最終処分場は、なかなか新しいところを見つけにくいと思いますので、是非、スチール缶の回収をお願いします。

【事務局】 空き缶は回収対象の拡大を考えています。有料化開始までには体制を整え、洗浄済み缶は回収したいと考えています。

また、トレイについて、今は白色トレイのみの回収ですが、色付トレイや

発泡スチロールを資源として回収できるよう考えています。

ペットボトルキャップについても、回収していきたいと考えています。

《資源回収に対する地域への還元について》

【意見等】 資源回収に力を入れているコミュニティへの還元によって、コミュニティがより一層資源化に協力する良い循環ができてくるので、有料化によって財源が増える、それが結果として地域に回ってくるところが具体的に見えてくると、地域としてもコミュニティとしても協力しやすいと思います。

【事務局】 資源の売却代は現在も地域に還元していますが、市全体の財政状況の中で回収重量に応じた奨励金は無くなりました。今回、有料化による手数料収入の使い道については、資源化を進めていただく地域の方に還元していくことも必要であると考えています。

また、資源回収品目の中で、売却できない物も若干あり、還元金に反映できていません。他の意見交換会の中でも多く伺っていますので、何らかの奨励金は考えていきたいと思っています。

【検討会議副会長】 実際にごみを出されるのは女性の方が多いと思うので、本当は女性の方の意見を期待していました。去年、検討会議でいろいろ質問をさせてもらいましたが、常滑市ではごみが減量され、有料化になった途端、ぎゅうぎゅうにごみが詰められて俵状のごみ袋が収集場所に出ているようです。

現在、私たちは1枚約10円のごみ袋を使っているのですが、袋に余裕があれば、収集日にあえてごみを入れて出しているのが現状です。

どうして有料化なのか、ということは、もちろん施策もあると思います。

東海市と施設が共同になるのは8年後で、その施設が全て償却し終わるのが30～40年先ですが、また新しい施設を建設しなければなりません。そのときには、子どもや孫がその税金の負担をしていかなければなりません。そうであれば、今から少しずつ私たちの意識を変えて、少しでもごみの資源化を進めていくとか、環境に良くしていくために、知多市がより住みやすくなるためには、自分たちが今どうしていかなければいけないのか、還元され

た手数料が今のコミュニティの方に還元されるだけでいいのか、自分たちの子どもが知多市で暮らし続けていくために、行政でごみの処理をしてくださる方と私たちがごみについて真剣に考える機会を作っていないと、なかなか難しいのではないかと考えています。

会議の中で最終的に出たのが、子どもたちへの教育です。ごみをどう仕分けるのか、私もごみがどのように処理されていて、どのように税金が投入されているかほとんど知りませんでした。検討会議の委員として勉強させていただく機会を得て、もっと知るべきだと思いました。

ぜひ、批判でも、清掃センターに見学に行くのでも、何でもいいと思うのですが、自分たちが今までどういうごみの出し方していたのか、ごみ処理施設では、どういう処理をされていたのか、今後どのようにすれば、私たちにより良いのかというのを改めて考えて意見を出していただく機会を進めていただけたらと思います。これが終わってからも市の方に意見を出していただいてもいいと思います。